



インストール、再インストール、アップグレードのためのユーザ入力

この付録では、Service Monitor のインストール、再インストール、およびアップグレードの際のユーザ入力に関する情報を提供します。

この付録では、次の内容について説明します。

- 「標準インストールのユーザ入力」(P.A-1)
- 「カスタム インストールのユーザ入力」(P.A-2)
- 「パスワード情報」(P.A-6)

標準インストールのユーザ入力

表 A-1 に、標準モードで初めて Service Monitor をインストールする際に入力する必要がある情報を示します。

表 A-1 新規インストールのためのユーザ入力：標準

設定	値
インストールするアプリケーション	インストールするアプリケーションを選択します。
<i>admin</i> ユーザのパスワード	デフォルト値はありません。 管理ユーザのパスワードを入力します。詳細については、「 パスワード情報 」を参照してください。
システム アイデンティティ アカウントのパスワード	デフォルト値はありません。 システム アイデンティティ アカウントのパスワードを入力します。詳細については、「 パスワード情報 」を参照してください。

表 A-1 新規インストールのためのユーザ入力：標準（続き）

設定	値
casuser のパスワード	空白のままにしておくと、パスワードがランダムに生成されます。
メール設定： <ul style="list-style-type: none"> HTTPS ポート 管理者の電子メールアドレス SMTP サーバ名 	<p>(注) システムに IIS が検出された場合に、デフォルトの HTTPS ポートを再設定することで IIS と Service Monitor との間にポートの競合が発生しないよう指定したときに表示されます。それ以外の場合、メール設定はカスタム インストール中にだけ表示されます。</p> <p>デフォルト値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ポート番号 443：表示された範囲の値を入力します。 admin@domain.com localhost 名

表 A-2 に、標準モードでアップグレードする際に入力する必要のある情報を示します。

表 A-2 アップグレード インストールのためのユーザ入力：標準

設定	値
casuser アカウントのパスワード	空白のままにしておくと、パスワードがランダムに生成されます（「パスワード変更後に起こりうる問題の修正」(P.A-6) を参照）。
インストールするアプリケーション	インストールするアプリケーションを選択します。

表 A-3 に、標準モードで再インストールする際に入力する必要のある情報を示します。

表 A-3 再インストールのためのユーザ入力：標準

設定	値
casuser アカウントのパスワード	空白のままにしておくと、パスワードがランダムに生成されます（「パスワード変更後に起こりうる問題の修正」(P.A-6) を参照）。
インストールするアプリケーション	インストールするアプリケーションを選択します。

カスタム インストールのユーザ入力

表 A-4 に、カスタム モードで初めてインストールする際に入力する必要のある情報を示します。

表 A-4 新規インストールのためのユーザ入力：カスタム

設定	値
インストール先フォルダ	デフォルトの場所は、システム ドライブ：¥Program Files¥CSCOpX です。特定の場所にインストールする場合は、別の場所を選択します。インストール先のフォルダには、短いパスを指定することを推奨します。
インストールするアプリケーション	インストールするアプリケーションを選択します。

表 A-4 新規インストールのためのユーザ入力：カスタム（続き）

設定	値
<i>admin</i> および <i>guest</i> ユーザのパスワード（必須）	デフォルト値はありません。 <i>admin</i> ユーザと <i>guest</i> ユーザのパスワードを入力します。詳細については、「パスワード情報」を参照してください。
システム アイデンティティ アカウントのパスワード（必須）	デフォルト値はありません。 システム アイデンティティ アカウントのパスワードを入力します。詳細については、「パスワード情報」を参照してください。
<i>casuser</i> ユーザのパスワード	空白のままにしておくと、パスワードがランダムに生成されます。
データベースのパスワード（必須）	データベースのパスワードを入力します。詳細については、「パスワード情報」を参照してください。
メール設定：（必須）	デフォルト値は次のとおりです。
<ul style="list-style-type: none"> HTTPS ポート 管理者の電子メールアドレス SMTP サーバ名 	<ul style="list-style-type: none"> 443：サーバに IIS がインストールされている場合、表示された範囲のポート番号を入力します。 <i>admin@domain.com</i> <i>localhost</i> 名
自己署名証明書のデータ：（必須）	デフォルトでは、自己署名証明書は Windows が登録されている組織およびホスト名を使用して生成されます。
<ul style="list-style-type: none"> 国番号 州 都市 組織名 組織ユニット名 ホスト名 電子メールアドレス 	<p>ホスト名を入力する必要があります。それ以外のフィールドは、空白のままにしておかまいません。</p> <p>(注) Common Services では、セキュリティ証明書を作成して、クライアント ブラウザと管理サーバとの間の SSL 通信をイネーブルにできます。自己署名証明書は、作成日から 5 年間有効です。証明書が期限切れになると、ブラウザには、Common Services をインストールしてあるサーバから再度証明書をインストールするよう求めるメッセージが表示されます。標準モードでは、この証明書は自動的に生成されます。</p>

表 A-5 に、カスタム モードでアップグレードする際に入力する必要のある情報を示します。



(注)

ネットワークに Service Statistics Manager がインストールされている場合に、次のいずれかを変更するとき

- admin ユーザのパスワード
- インストール場所（Service Monitor がインストールされているディレクトリ）

Service Statistics Manager は Service Monitor からのデータ収集を中止します。データ収集を再度イネーブルにするには、『*Release Notes for Cisco Unified Service Statistics Manager 1.3*』に記載の手順を実行します。

表 A-5 アップグレード インストールのためのユーザ入力：カスタム

設定	値
インストールするアプリケーション	インストールするアプリケーションを選択します。
<i>admin</i> および <i>guest</i> ユーザのパスワード (オプション)	<i>admin</i> ユーザおよび <i>guest</i> ユーザのパスワードを変更できます。既存のパスワードを維持するには、空白のままにしておきます (「パスワード変更後に起こりうる問題の修正」(P.A-6) を参照)。
システム アイデンティティ アカウントのパスワード (必須)	デフォルト値はありません。 システム アイデンティティ アカウントのパスワードを入力します。詳細については、「パスワード情報」を参照してください。
<i>casuser</i> ユーザのパスワード (オプション)	パスワードを入力しない場合、セットアッププログラムによりパスワードがランダムに生成されます (「パスワード変更後に起こりうる問題の修正」(P.A-6) を参照)。
データベースのパスワード (オプション)	既存のパスワードを使用するには、空白のままにしておきます。
メール設定 : (オプション) <ul style="list-style-type: none"> • HTTPS ポート • 管理者の電子メールアドレス • SMTP サーバ名 	既存の情報を維持できます。
自己署名証明書のデータ : (必須) <ul style="list-style-type: none"> • 国番号 • 州 • 都市 • マニュアルの構成 • 組織ユニット名 • 電子メール アドレス 	自己署名証明書の情報は変更できます。デフォルトでは、インストールプログラムは既存の自己署名証明書の情報を使用します。 新しい証明書を生成する場合、[Keep Existing Certificate] チェックボックスをオフにし、国番号、州、都市、会社、組織、および HTTPS ホスト名を入力します。 ホスト名を入力する必要があります。それ以外のフィールドは、空白のままにしておかまいません。 (注) Common Services では、セキュリティ証明書を作成して、クライアントブラウザと管理サーバとの間の SSL 通信をイネーブルにできます。自己署名証明書は、作成日から 5 年間有効です。証明書が期限切れになると、ブラウザには、Common Services をインストールしてあるサーバから再度証明書をインストールするよう求めるメッセージが表示されます。標準モードでは、この証明書は自動的に生成されます。

表 A-6 に、カスタム モードで再インストールする際に入力する必要のある情報を示します。



(注) Service Statistics Manager がインストールされている場合に、次のいずれかを変更するとき

- *admin* ユーザのパスワード
- インストール場所 (Service Monitor がインストールされているディレクトリ)

Service Statistics Manager は Service Monitor からのデータ収集を中止します。データ収集を再度イネーブルにするには、『*Release Notes for Cisco Unified Service Statistics Manager 1.3*』に記載の手順を実行します。

表 A-6 再インストールのためのユーザ入力：カスタム

設定	値
インストール先フォルダ	デフォルトの場所は、システム ドライブ: ¥Program Files ¥CSCOpX です。 インストール先のフォルダには、短いパスを指定することを推奨します。
admin および guest ユーザのパスワード (オプション)	admin ユーザおよび guest ユーザのパスワードを変更できます。既存のパスワードを維持するには、空白のままにしておきます (admin ユーザのパスワードを変更する場合は、「パスワード変更後に起こりうる問題の修正」(P.A-6) を参照してください)。
システム アイデンティティ アカウントのパスワード (必須)	システム アイデンティティ アカウントのパスワードを変更できます。既存のパスワードを維持するには、空白のままにしておきます。
casuser ユーザのパスワード (オプション)	パスワードを入力しない場合、セットアップ プログラムによりパスワードがランダムに生成されます (「パスワード変更後に起こりうる問題の修正」(P.A-6) を参照)。
データベースのパスワード (オプション)	既存のパスワードを維持するには、空白のままにしておきます。
メール設定 : (オプション) <ul style="list-style-type: none"> • HTTPS ポート • 管理者の電子メールアドレス • SMTP サーバ名 	既存の情報を維持できます。
自己署名証明書のデータ : (必須) <ul style="list-style-type: none"> • 国番号 • 州 • 都市 • 組織名 • 組織ユニット名 • ホスト名 • 電子メールアドレス 	デフォルトでは、自己署名証明書は Windows が登録されている組織およびホスト名を使用して生成されます。 ホスト名を入力する必要があります。それ以外のフィールドは、空白のままにしておかまいません。 (注) Common Services では、セキュリティ証明書を作成して、クライアント ブラウザと管理サーバとの間の SSL 通信をイネーブルにできます。自己署名証明書は、作成日から 5 年間有効です。証明書が期限切れになると、ブラウザには、Common Services をインストールしてあるサーバから再度証明書をインストールするよう求めるメッセージが表示されます。標準モードでは、この証明書は自動的に生成されます。

パスワード情報

ここでは、インストール中のパスワードの使用に関する情報を提供します。

以下の内容について説明します。

- 「新規インストールのパスワードに関するルール」 (P.A-6)
- 「パスワード変更後に起こりうる問題の修正」 (P.A-6)
- 「アップグレードインストールのパスワードに関するルール」 (P.A-7)
- 「再インストールのパスワードに関するルール」 (P.A-7)
- 「パスワードの説明」 (P.A-7)
- 「パスワードの変更」 (P.A-8)

新規インストールのパスワードに関するルール

新規インストールには、以下のルールが適用されます。

- 標準モードでは、admin、casuser、システムアイデンティティアカウントのパスワードが必須です。guest およびデータベースのパスワードは、インストールプログラムによりランダムに生成されます。
- カスタムモードでは、admin、guest、システムアイデンティティアカウント、およびデータベースのパスワードが必須です。casuser パスワードは、入力するか、またはインストールプログラムによりランダムに生成されるようにできます。

パスワード変更後に起こりうる問題の修正

アップグレードおよび再インストールの際に、admin ユーザおよび casuser アカウントのパスワードを変更できます。表 A-7 に、起こりうる問題とその対処法を示します。

表 A-7 起こりうる問題

変更したパスワード	起こりうる問題	対処方法：
admin	Service Statistics Manager は、Operations Manager および Service Monitor と接続できなくなる。	ネットワークに Service Statistics Manager がインストールされている場合、『 Release Notes for Cisco Unified Service Statistics Manager 1.3 』の手順を実行して、接続を再度確立します。
casuser	Windows 認証が構成されている Unified Communications Manager version 4.x システムにアクセスする場合に、Service Monitor 資格情報が認められない。	Service Monitor サーバの casuser パスワードは、Unified Communications サーバの casuser パスワードと一致していなければなりません。Unified Communications Manager がインストールされている Windows サーバにログインし、casuser パスワードを更新します。 (注) Service Monitor サーバの casuser パスワードがわからない場合は、『 casuser パスワードの変更 』を参照してください。

アップグレード インストールのパスワードに関するルール

アップグレード インストールの際に、casuser パスワードが要求されます。それ以外のパスワードは維持されます。

再インストールのパスワードに関するルール

再インストールには、次のルールが適用されます。

- 標準モードでは、インストール プログラムは、admin、guest、およびデータベースのパスワードを維持します。casuser パスワードは、入力するか、またはインストール プログラムによりランダムに生成されるようにできます（「パスワード変更後に起こりうる問題の修正」(P.A-6)を参照）。
- カスタム モードでは、新しい admin、guest、システム アイデンティティ アカウント、およびデータベースのパスワードを入力するか、または既存のパスワードを維持できます。casuser パスワードは、入力するか、またはインストール プログラムによりランダムに生成されるようにできます（「パスワード変更後に起こりうる問題の修正」(P.A-6)を参照）。

パスワードの説明

パスワードの種類は、次のとおりです。

- 「Common Services admin パスワード」(P.A-7)
- 「システム アイデンティティ アカウント パスワード」(P.A-7)
- 「Common Services guest パスワード」(P.A-8)
- 「Common Services のデータベース パスワード」(P.A-8)

Common Services admin パスワード

admin ユーザのパスワードを入力する際は、5 文字以上使用します。

admin ユーザ アカウントはデフォルトの管理者です。初回インストール後に Service Monitor にログインするには、admin ユーザ名とパスワードを使用する必要があります（パスワードは必ず書き留めてください）。

インストールでは標準モードでもカスタム モードでも、このパスワードの入力が求められます。

システム アイデンティティ アカウント パスワード

システム アイデンティティ アカウントのパスワードを入力する際は、5 文字以上使用します。

インストールでは標準モードでもカスタム モードでも、このパスワードの入力が求められます。

システム アイデンティティ アカウントは、マルチサーバ環境で使用されます。複数サーバ間の通信は、資格情報および共有秘密キーにより実現される「trust」モデルによって可能になります。詳細については、Common Services のオンライン ヘルプを参照してください。



(注)

Cisco Secure ACS (別のサーバにインストール済み) でセキュリティを設定し、マスター モードおよびスレーブ モードで DCR を設定するには、システム アイデンティティ アカウントが必要です (Operations Manager では DCR がサポートされていますが、Service Monitor ではサポートされていません)。

Common Services guest パスワード

Common Services guest アカウントのパスワードを入力する際は、5 文字以上使用します。

このパスワードを使用し、Common Services サーバに guest ユーザとしてログインします。[Custom] インストール モードでこのパスワードを入力するよう求められます。標準モードでは、このパスワードはランダムに生成されます。

Common Services のデータベース パスワード

データベースのパスワードを入力する際は、以下のルールに従います。

- 5 文字以上使用し、15 文字を上限とします。
- 先頭に数字は使用しません。
- 文字間に空白が含まれないようにします。
- 特殊文字は使用しません。

パスワードの変更

ここでは、ユーティリティ（または、可能な場合は Common Services のユーザ インターフェイス）を使用して admin ユーザと casuser アカウントのパスワードを変更する方法を説明します。

- [「Common Services admin パスワードの変更」](#)
- [「casuser パスワードの変更」](#)

Common Services admin パスワードの変更



(注)

admin パスワードを変更する場合は、ネットワークに Service Statistics Manager がインストールされているとき、Service Statistics Manager は Operations Manager および Service Monitor と接続できなくなります。接続を再度確立するには、『[Release Notes for Cisco Unified Service Statistics Manager 1.3](#)』の手順を実行します。

Common Services admin パスワードを変更するには、Common Services のユーザ パスワード リカバリ ユーティリティを使用するか、Common Services のユーザ インターフェイスから変更します。

- [「パスワード リカバリ ユーティリティを使用した admin パスワードの変更」](#)
- [「Common Services からの admin パスワードの変更」](#)

パスワード リカバリ ユーティリティを使用した admin パスワードの変更

ステップ 1 シェル プロンプトで次のコマンドを入力して、デーモン マネージャを停止します。

```
net stop crmdmgtd
```

ステップ 2 `NMSROOT¥bin` ディレクトリに移動し、次のように入力します。

```
NMSROOT¥bin¥resetpasswd username
```

`NMSROOT` は、Service Monitor をインストールしたディレクトリです。

次のメッセージが表示されます。

```
Enter new password for username:
```


- ステップ 3** `username` に対するパスワードを入力します。
- ステップ 4** コマンドプロンプトで次のコマンドを入力して、デーモン マネージャを起動します。
- ```
net start crmdmgt
```

---

## Common Services からの admin パスワードの変更

- ステップ 1** ユーザ名 `admin` を使用してログインします。
- ステップ 2** [Administration] > [Server Administration (Common Services)] > [Security] > [Local User Setup] の順に選択します。
- [Local User Setup] ページが表示されます。
- ステップ 3** [Modify My Profile] をクリックします。
- [My Profile] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 4** [Password] フィールドにパスワードを入力します。
- ステップ 5** [Verify] フィールドにパスワードを再入力します。
- ステップ 6** [E-mail] フィールドに電子メール ID を入力します。
- ステップ 7** [OK] をクリックします。
- 

## casuser パスワードの変更



### 注意

casuser パスワードを変更すると、Windows 認証が構成されている Unified Communications Manager version 4.x システムにアクセスする場合に、Service Monitor 資格情報が認められない場合があります。入力する新しい casuser パスワードと整合するように casuser パスワードを更新するには、Unified Communications Manager がインストールされている Windows サーバにログインしておく必要があります。

---

- ステップ 1** コマンドプロンプトで、次のように入力します。
- ```
NMSROOT¥setup¥support¥resetCasuser.exe
```
- 次の 3 つのオプションが表示されます。
1. Randomly generate the password
 2. Enter the password
 3. Exit
- ステップ 2** 「2」と入力し、Enter を押します。
- メッセージが表示され、パスワードの入力が求められます。
- ステップ 3** パスワードを確認します。
- Service Monitor サーバにローカル ユーザ ポリシーが設定されている場合に、パスワード ポリシーに一致しないパスワードを入力すると、アプリケーションが終了し、エラーメッセージが表示されます。詳細については、Common Services オンライン ヘルプの「Setting up Local User Policy」を参照してください。
-

■ パスワード情報